

トビウオ通信 (H25 第 6 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 24 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

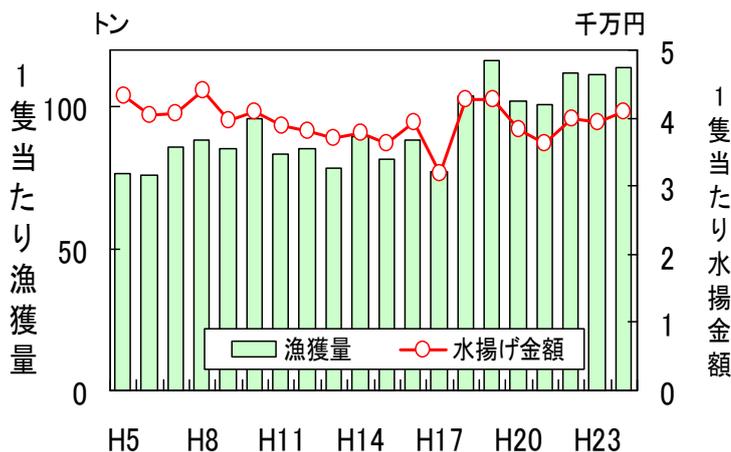


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

ソウハチ 過去最高!

ソウハチのCPUEは31.0トンで、平年の1.7倍の水揚げとなり、平成5年以降最高の水揚げとなりました。ただ、漁場を沖合へ広げつつ漁獲増となっていることから、今後の動向に注意する必要があります。一方、ムシガレイのCPUEは3.2トンで平年の7割の水揚げに留まりました。また、ヤナギムシガレイのCPUEは1.3トン、メイタガレイのCPUEは0.4トンでした。

ケンサキイカ 前年を下回る

ケンサキイカのCPUEは過去最高であった前漁期を下回り4.8トンで、前年の6割の水揚げに留まりましたが、平年の1.3倍の水揚げとなりました。ヤリイカのCPUEは1.5トンで、平年の1.2倍の水揚げとなりました。

アカムツ 平年を上回る

アカムツのCPUEは4.1トンで、平年の1.6倍の水揚げがあり、平成22年漁期に次ぐ高い値となりました。キダイのCPUEは7.5トンで平年の1.2倍の水揚げとなりました。一方、ニギスのCPUEは8.6トンで、平年の7割、アンコウのCPUEは7.3トンで平年の9割の水揚げに留まりました。このほか、アナゴ類は5.1トンで、平年の1.8倍の水揚げがあり、平成5年以降最高の水揚げとなりました。

1隻当たり漁獲量・金額、平年上回る!

島根県の小型底びき網1種漁業(かけまわし)46隻*の平成24年漁期(平成24年9月1日~平成25年5月31日)の総漁獲量は5,240トン、総水揚げ金額は18億8,636万円でした。1隻当たり漁獲量(以下、CPUE)は113.9トン、水揚げ金額は4,107万円で、平年を漁獲量では16%、水揚げ金額では7%上回る水揚げとなりました(過去10ヶ年平均;98.2ト、3,847万円)(図1)。

*当漁業における島根県全体の操業隻数は50隻ですが、統計は46隻分の集計です。

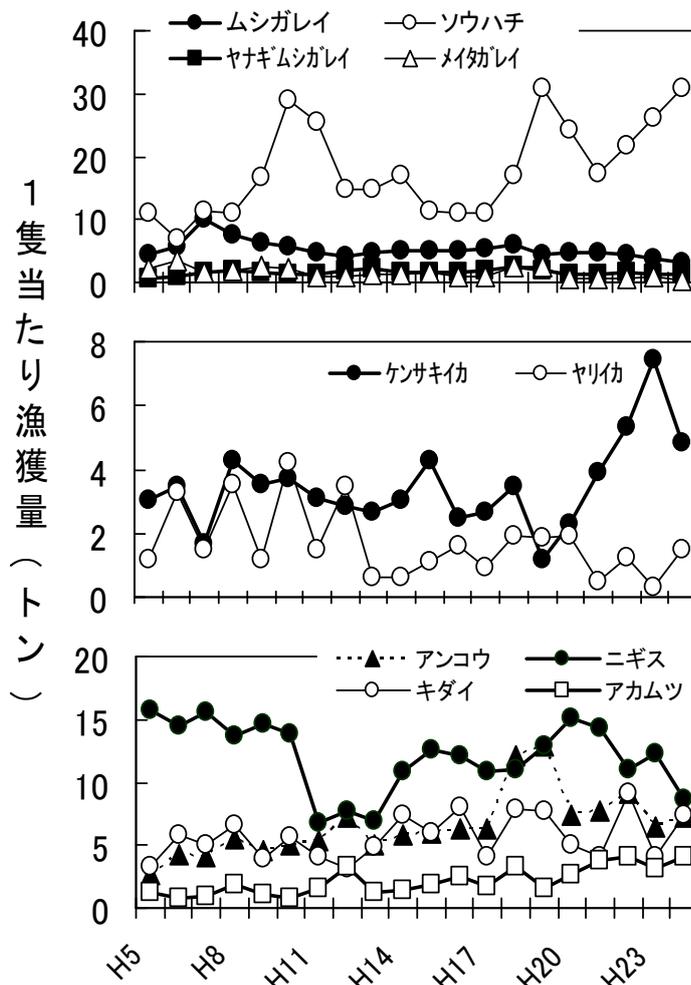


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

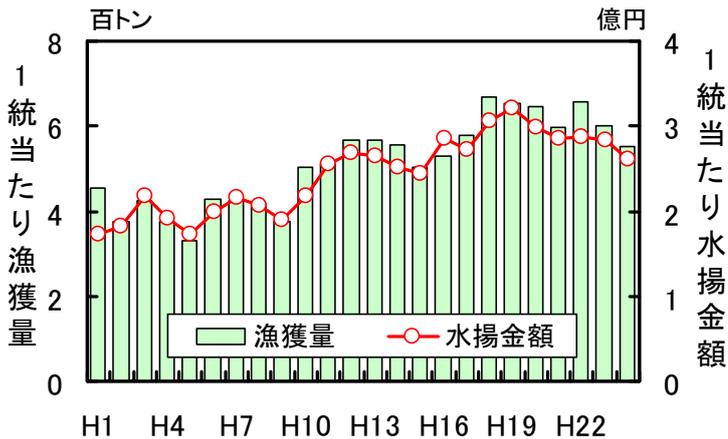


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

1 統当たり漁獲量・金額、平年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数5ヶ統）の平成24年漁期（平成24年8月16日～25年5月31日）の総漁獲量は2,760トン、総水揚金額は13億598万円で、量・金額ともに前漁期をわずかに下回りました。また、1統当たりの漁獲量は552トン、水揚げ金額は2億6,120万円で、量・金額ともに平年を8%下回りました（過去10年平均：600ト、2億8,353万円）（図3）。8、9月は台風の襲来により避難帰港が多かったうえに、8月の水揚げが平年の8割に留まったことが影響しました。また、今期は夏季から秋季にかけて大型クラゲの来遊がありました。過去のような大きな被害は見られませんでした。

カレイ類 全般的に低調

主要魚種であるムシガレイのCPUEは53トンで、平年の6割の水揚げに留まりました。一方、ソウハチのCPUEは41トンで、平年をわずかに上回る水揚げとなりました。また、ヤナギムシガレイのCPUEは9トンで、平年の5割の水揚げに留まりました。ムシガレイについては、近年、漁獲量が急激に減少してきています。

ケンサキイカ 平年並み

ケンサキイカのCPUEは42トンで、前漁期の6割の水揚げに留まりましたが、平年並みの水揚げとなりました。また、ヤリイカのCPUEは6トンで、平年を上回る水揚げとなり、久しぶりに冬季にまとまった水揚げが見られました。

キダイ好調！

アカムツのCPUEは25トンで、平年の1.5倍の水揚げとなりました。特に小型サイズ（メッキン）が休漁明けの8月と春季にまとまって漁獲され漁獲増となりました。アナゴ類のCPUEは43トンで、平年を上回る水揚げとなりました。アンコウのCPUEは26トンで、前漁期、平年の6割の水揚げに留まりました。また、キダイのCPUEは57トンで、平年の1.5倍の水揚げとなりました。漁期を通して、小型サイズ（シバ）、中型～大型サイズ（レンコ）が好調に推移し、平成22、23年漁期に次ぐ、高い値となりました。

この他、イボダイのCPUEは4トンで、低調に推移しました。さらに冬季から春季にまとまった水揚げのあるマフグのCPUEは平年を26%下回る26トン水揚げとなりました。また、カワハギ類（CPUE：16トン）、マトウダイ（CPUE：17トン）、マダイ（CPUE：11トン）、ヒラメ（CPUE：10トン）が好調に推移し、平年の1.6倍～2倍の水揚げがありました。マトウダイ、ヒラメにおいては平成元年以降最高の水揚げとなりました。

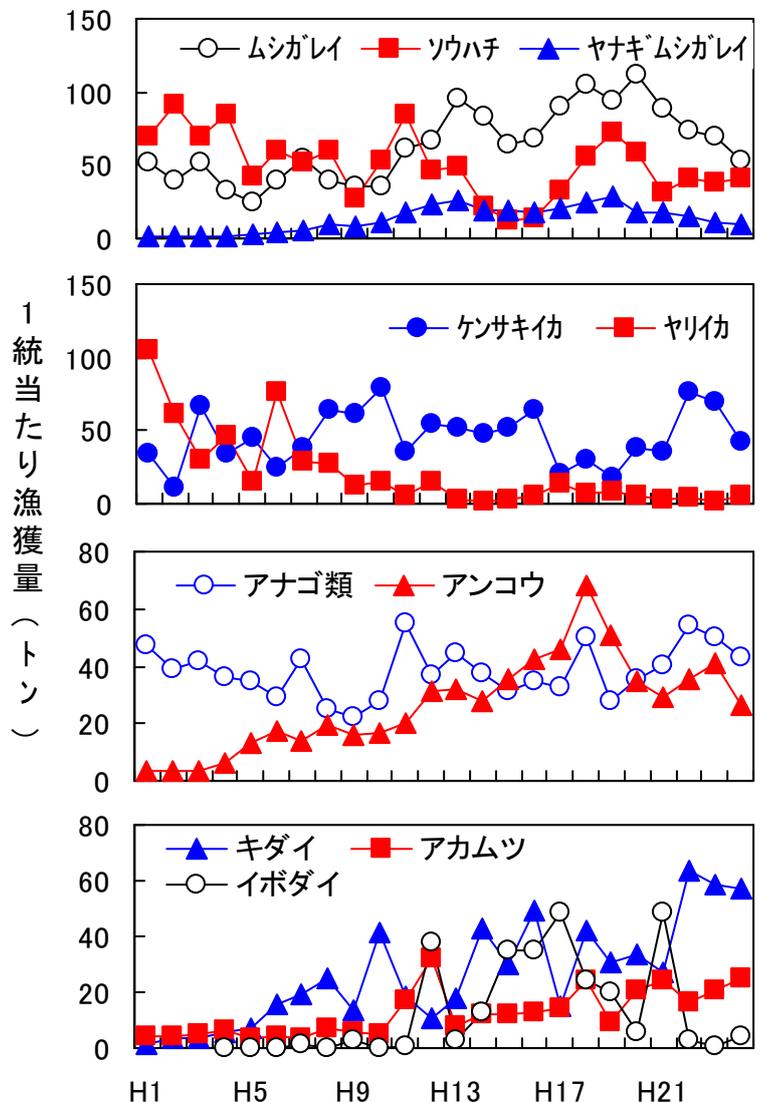


図4 浜田港を基地とする沖合底曳網漁業における主要魚種の動向